

はなればなれでも

鹿児島県

南種子町立中平小学校 三年

宮ノ前 邑月

「父ちゃん、お兄ちゃん、ただいま。」

「おお、邑月、お帰り。」

一ヶ月ぶりに会う、父と兄。なつかしい家のおい。いつもすわつていた、みどりのいす。

わたしは、四月に指宿市から種子島の南種子町に引っ越ししました。母の仕事のてんきんで、家族が二つに分かれてしまったのです。わたしは、はなれてくらすなんて、本当はとてもかなしいことなので、どうにかして家族いっしょにくらせなにか、いろいろ考えました。でも、子どものわたしにはいい方法が考えつかなかったので、母と南種子町に行こうと自分できめました。

南種子の生活に早くなれようと、わたしも毎日一生けんめいがんばりました。学校に行っている間はさびしいなんて思わないのですが、夜ごはんを食べる時は、どうしても父と兄を思い出してさびしくなります。なぜかという、指宿ではいつも家族四人で、にぎやかにごはんを食べていたからです。学校であったことや次の休みの日には何をしておぼが話をしながら。母と二人で、いつも、「お兄ちゃんたちもうごはん食べたかなあ。」

「今日は、何を食べてるかなあ。」
と心ばいしながら食べています。母が作ってくれたごはんはおいしいけれど、やっぱり家族四人で食べるごはんはさい高だったなあと心の中で思っています。言葉にしてみましたと、ないてしまいうです。それでもがまんしきれなくなったら、電話やメール

をします。父や兄の声を聞くと、初めはほつとして明日もがんばろうと思います。でも、だんだんやつぱり指宿に帰りたいと思ったり、指宿に帰つてしまおうと母に毎日会えないのはいやだと思ったり、心の中がごちゃごちゃになります。父とは、小さいころからよく一しょにおふろに入り、休みの日はあそび、たくさん話をします。兄とも、ときどきけんかをするけれど、一しょにあそんだりべん強したり話をしたりなかなよしです。はなれて生活すると、二人のいい所ばかり思い出されます。

ある日、わたしはメールを打ちながら、お気に入りの言葉を見つけてきました。それは、「はなれていても家族だよ」です。何回もつぶやいている内に、体の中から元気がわいてきました。よし、この言葉をわたしのお守りにしよう。そう決めたら、家族のみんなのお守りの言葉にしたくなったので、母にも相談しました。母は、ふかくうなずきながら、

「それ、いいね。お母さんとても気に入った。」とよろこんでくれました。父と兄からも、「この言葉、大切にすよ。」とへん信が来ました。

それからわたしは、さびしくなった時、心の中でお守りの言葉をつぶやきます。

「はなれていても家族だよ。」
そうすると、安心します。だから、一ヶ月ぶりに帰つても、え顔でいられます。やっぱり家族は宝物。大好きで大好きでたまりません。